

Title	No. 19 : 東京歯科大学市川総合病院集中治療室における 歯科口腔外科および口腔がんセンター症例の臨床統計 (2012年4月~2013年3月)
Author(s)	小鹿, 恭太郎; 渡部, 恭大; 桑内, 亜紀; 石丸, 理恵; 加藤, 梓; 加藤, 崇央; 大内, 貴志; 芹田, 良平; 小坂 橋, 俊哉
Journal	歯科学報, 113(2): 206-206
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/3040">http://hdl.handle.net/10130/3040</a>
Right	

## No.19：東京歯科大学市川総合病院集中治療室における歯科口腔外科および口腔がんセンター症例の臨床統計（2012年4月～2013年3月）

小鹿恭太郎，渡部恭大，桑内亜紀，石丸理恵，加藤 梓，加藤崇央，大内貴志，芹田良平，小坂橋俊哉（東歯大・市病・麻酔科）

**目的：**東京歯科大学市川総合病院は歯科大学付属病院に集中治療室（ICU）およびハイケアユニット（HCU）が設置された唯一の施設である。当施設ではICU，HCU入室基準を，意識障害または昏睡，急性呼吸不全または慢性呼吸不全の急性増悪，急性心不全，急性薬物中毒，ショック，重篤な代謝障害，広範囲熱傷，大手術後，救急蘇生後，外傷，破傷風等で重篤な状態，その他としている。歯科口腔外科（口外）および口腔がんセンター（OCC）ではこの基準に則りICU，HCU入室申し込み基準を，75歳以上の全身麻酔症例，当院循環器科の対診により異常があった症例，口腔癌，顎変形症，上下顎骨骨折，舌および口底へ及ぶ手術，顎下隙の開放を必要とする消炎手術など，気道閉塞の危険を有する症例としている。今回我々は2012年度に当施設ICU，HCUに入室した口外およびOCC症例について集計し検討した。

**方法：**2012年4月～2013年3月に当施設ICU，HCUに入室した口外およびOCC症例についてレトロスペクティブに集計した。

**結果：**ICU入室症例数は口外11例，OCC36例であり，HCUは口外27例，OCC45例であった。総手術症例数326例の内ICU，HCU入室症例数は115例で

あり，総手術症例に対する入室率は35%であった。尚この他に全身状態の悪化による病棟からの入室が4例あった。平均年齢はICU症例，HCU症例ともに60歳であった。気道管理の入室が82例，大手術後が29例，術後循環管理が8例であった。在室日数の平均はICU3.3日，HCU2.1日で，最長は16日であった。人工呼吸器管理を要したのは6例で，重篤な状態に陥った症例も2例あったが，後遺症を来した症例や死亡症例はなかった。

**考察：**口外およびOCC症例は頭頸部の疾患を有するため，術後の気道閉塞などの合併症を予防する管理が重要となる。予め気道閉塞のリスクが高いと予測される症例に対しては挿管チューブの留置や気管切開を施行しICU，HCUに入室するが，気道閉塞の可能性はあるがそのリスクはそれほど高くない症例もある。そのような症例の管理を可能な限りICU，HCUで行うことによって，予測し得なかった気道トラブルや症状の増悪にも早期に対応可能となる。実際に重篤な状態に陥った上記2症例に対しても迅速に対応し，後遺症などは生じなかった。今後ともリスク患者の全身管理をICU，HCUで行うことで，より安全な医療が提供できると考えている。

## No.20：東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科における平成24年度外来初診患者の臨床統計

伊藤泰隆<sup>1)</sup>，武田 瞬<sup>1)</sup>，酒井克彦<sup>1)</sup>，吉田恭子<sup>1)</sup>，浮地賢一郎<sup>1)</sup>，有坂岳大<sup>1)</sup>，武安嘉大<sup>1)</sup>，佐藤一道<sup>2)</sup>，片倉 朗<sup>1)</sup>（東歯大・オーラルメディシン口外）<sup>1)</sup>（東歯大・口腔がんセンター）<sup>2)</sup>

**目的：**昨年，東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科では平成23年度の初診来院患者の臨床統計を示し，超高齢社会での多様化する疾患への管理や対応の必要性を提示してきた。また，平成24年4月1日より保険導入された周術期口腔機能管理により一層の病院歯科の役割は重要度を増すものと考察した。

そこで，昨年度に引き続き，当科における平成24年度初診患者の臨床統計的検討を行い，患者背景の相違や周術期口腔機能管理導入による影響を把握し病院歯科・口腔外科の役割を再度考察するとともに，今後の在り方，方向性について検討することとした。

**方法：**平成24年4月1日から平成25年3月31日までの一年間に当院歯科・口腔外科を初めて受診した患者のみを対象とした。疾患の分類は，社日本口腔外科学会調査企画委員会が作成した実績調査票に準じて，性別，年齢分布，来科地域，受診経路，疾患別分類，紹介患者の基礎疾患，院内他科からの依頼内容について集計し検討を行った。

**結果：**期間中に受診した初診患者数は5,076人であり，そのうち男性は約45%，女性は55%であった。年齢分布は0歳から100歳まで，平均年齢は50.7歳であった。年齢別では60歳代が約16%と最も多く，

60歳以上は約40%を占めた。来科地域は市川市が約60%，船橋市が約10%と続いた。県別では千葉県が84%，東京都が14%であった。受診経路は紹介患者が65%を占め，うち歯科診療所は約50%，医科診療所は約4%，院内他科からの紹介は約11%を占めた。疾患別では，歯の疾患が約37%，口腔粘膜疾患が約12%，周術期口腔ケアが約6%，顎関節症が約6%を占めた。初診患者の内，基礎疾患を持った症例は3,042例あり，最も多い疾患は高血圧が約13%，次いでがんが約8%，そして糖尿病が約6%であった。院内患者の歯科初診における治療内容は口腔ケアが約59%を占め，次いで嚥下訓練が約26%であった。

**考察：**当院における平成24年度の初診患者の構成は，平成23年度と比較し特に基礎疾患でがんの割合が増加している。これは周術期口腔機能管理の影響を受け院内他科からの術前口腔管理の依頼の割合が増えたことが影響している。また歯科診療所からの紹介率も大幅に増加している。これは当院と地域の医師会歯科医師会との学術的な交流を含めた地域医療連携により病院歯科の必要性が理解されたものと考察された。